



TITLE:

中小経営の弾力性に就いて

AUTHOR(S):

岡倉, 伯士

CITATION:

岡倉, 伯士. 中小経営の弾力性に就いて. 経済論叢 1935, 41(2): 293-298

ISSUE DATE:

1935-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130614>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 二 第

卷一十四第

行發日一月八年十和昭

論 叢

生産の構造

文學博士 高田保馬

寺院と課税

法學博士 神戸正雄

第三世界觀的人格典型

文學博士 米田庄太郎

時 論

最近に於ける産業組合金融の動向

經濟學博士 八木芳之助

研 究

フランス帝國經濟會議

經濟學士 松岡孝兒

産業的流通に於ける營業貨幣の流通速度

經濟學士 中谷實

マーカン時代マリーカンの海運政策の典型

經濟學士 明石嚴三

商業生産説の諸性格

經濟學士 松井清

説 苑

希臘人の「植民」觀

農學士 若木禮

中小經營の弾力性に就いて

經濟學士 岡倉伯士

附 録

新着外國經濟雜誌主要論題

中小經營の彈力性に就いて

岡 倉 伯 士

一

從來資本主義經濟の發展に伴ふ企業集中、或は經營の大規模化現象の進展は、その必然的歸結として、中小經營の没落を齎らすものであるとせられた。けれども少しく立入りて考ふる時は、右の一般的發展傾向に對して種々の文化的・經濟的抵抗の存在する事が認められる。¹⁾而して此の一般的發展傾向に對する一つの經濟的抵抗として、普通に認めらるゝものゝ一つは、中小經營の彈力性、即ちその外部的經濟條件の變動に對する適應能力である。

こゝに紹介せんとする Ruberg の彈力性理論は、²⁾主として中小工業經營を對稱とせるものであるが、その内容は廣く中小經營一般に妥當する處多く、今日經濟政策上の一中心問題たる中小經營問題の根本的認識に資する處が少くないと思はれる。

二

惟ふに大規模經營の經濟的優越性の主なる根據は、大量仕入・大量生産に依りて單位當り、費用を節減しうる點に存する。けれども此の大量仕入ならびに大量生産有利の法則は、市場に於ける大量需要の存在を前提して始めて有効に發揮せらるゝのであつて、市場條件を無視せる經營の擴張は、必然に需給の均衡攪亂を生み出し、時としては費用は節約せられずして寧ろ増大する。

故に經營の給付能力にとりて決定的意義を有するものは、生産手段の技術的作用能力自體ではなくして、寧ろそれが、市場條件に對して有する相對的意義である。而して經營の給付能力の外部的市場條件に對する相對的關係、即ち「經營が與へられたる前提的諸條件の下に於て、最高の經濟的成果 Wirtschaftserfolg を獲得せんが爲に、その經營過程 Betriebsablauf を決定的に制約する所の、外部的經濟的諸條件の變動に適應す

1) 谷口教授、中小工業の更生と組合運動、論叢、39卷、5號、47—50頁參照。

2) Carl Ruberg, Die Elastizität der gewerblichen Klein- und Mittelbetriebe. (Die Betriebswirtschaft Heft 8/9, 26 Jahrg. S. 208 ff.)

る可能性³⁾は普通に經營の彈力性と呼ばれて居る。

經營の彈力性は一般的抽象的には右の如く規定しうるけれども、之を具體的に把握せんとする場合には、その測定の絶對的規準を求め得ざるが爲に、種々の困難に遭遇する。而して中小經營の彈力性の具體的把握上の困難は、一面には經營規模區別の明確なる一律的限界を求むる事の困難なるのみならず、他面には中小經營の經濟的組成自體が、決して統一的な經濟構造體ではなくして、その構成・經濟目的、さらにその内部的生活 (Innenleben) に於て種々雜多であることに基因する。故に特定の經營の彈力性の具體的把握の企は、その測定に關する何等かの絶對的規準の追求よりも、寧ろその經營の經濟活動の過程に於て顯はるゝ諸々の兆候の認識によりてのみ達成せられるのである。けれども言ふ迄もなく、此等諸々の兆候の凡てが彈力性の具體的把握に對して同等の價值を持つものではないのであつて、『彈力性の判斷に於て如何なる兆候 Symptom に重要意義が歸屬するかは、第一に、經營の外部的表

現を基礎付けて居る所の如何なる過程が、その經營目的の達成上、重要性を占むるかに依存するのである。⁴⁾例へば經營目的が最大利潤の獲得に存する營利經營に於ては、當然に費用と給付高の運動が、その經營の彈力性の重要な具體的表徴であるが、之に反し經營が組合的任務を有し、その組合員の消費生活の充實を第一義とする場合には、寧ろ販賣過程がその經營目的の達成に對し重要な意義を持つが故に、此の種の經營の彈力性の具體的表徴としては販賣價格がより重要である。のみならず更に『同一的或は相互作用的な諸過程 (例へば仕入、生産、販賣の諸過程) に於ける數多の諸表徴 (例へば諸々の費用、價格、或は又操業率、生産高等) の中、與へられたる經營體により、大なる影響を與ふる標識 Anzeichen がより高き價值を占める』⁵⁾のであつて、例へば費用の運動が主として人件費に依りて制約せられる場合には、此の人件費が他の諸費用に比し、その經營體により、大なる影響を與ふる標識であり、従つてその經營の彈力性の具體的表徴と見做されうるのであ

3) Ruberg, a. a. O. S. 208.
4) Ruberg, a. a. O. S. 208.
5) Ruberg, a. a. O. S. 208.

る。

三

既に述べたる如く、經營の弾力性は外部的變動に對する適應能力であるが、此の適應が實現せられるが爲には、(一)外部的變動が認識せられること、(二)當該經營を外部的變動に適應せしめんとする意志が實行せられることの二つの前提的要件が満足せられねばならない。而も此等二要件の満足せられる程度は、すべての經營に於て必ずしも一樣ではない。

Ruberg は先づ適應實現の第一要件たる外部的變動認識の可能性の問題を、販賣市場・調達市場・信用市場・勞働市場に於ける諸變動につきて論究して居る。

而して彼は販賣市場に於ける諸力、即ち販賣従つて供給數量を規定する諸力の變動に對する認識可能性の問題を考案するに當り、經營を便宜上、(一)消費材を直接に終局消費者へ販賣するもの、(二)消費材生産經營にしてその製品販賣が商業に依りて仲介せられるもの、(三)生産手段の生産經營の三群に分つてゐる。これら諸

中小經營の弾力性に就いて

經營群の中、中小經營全體の大多數を占むる第一群は、消費者層と直接的連繫を保持して居るが故に、『主として消費者の趣味變動並に收入の運動に由來する販賣市場に於ける變動に對して極めて敏感である。』

之に反し第二群は、消費者層との直接的接觸なき爲に、消費者側に於ける諸事情の變動に對して、さほどに鋭敏ではない。此の場合にあつては、『販賣市場に於ける變動は、先づ介在的商業陣營に依りて把握せられ、それは一定の「遅れ」Verzögerung を以て始めて生産經營に傳達せられる。』

中小經營にして第三群に屬するものは極めて少數であつて、此の種の經營と需者層との間には、普通に商業の段階的介入が行はれて居るのみならず、その生産物自身の持續的性質の爲に、販賣市場の刻々の變動に對する感應性は一般に低い。

之を要するに、『總じて中小經營は販賣市場に於ける諸勢力の變動をば比較的迅速且完全に認識するものである。』

6) Ruberg, a. a. O. S. 210.
7) Ruberg, a. a. O. S. 210.
8) Ruberg, a. a. O. S. 210.

第二に調達市場に於ける諸勢力の變動に對する認識の可能性に就いて考ふるに、先づ注目すべきは、調達市場より經營への「商品の流れ」が持續的流動的に行はれ、從つて商品の回轉の極めて迅速なる經營、例へば食料品工業の如きである。

『此の種の經營に對する調達市場の變動の方向及その強度の傳達は比較的迅速であるが、』特に經營と原料卸市場との接觸が直接的であればある程、その傳達は速かである。之に反し原料の貯藏が比較的長期に亙る經營、從つて商品回轉の比較的緩慢なる經營、例へば木材加工業・金屬加工業の如きは、市場との接觸の斷續的なるが爲に、調達市場の變動に對する認識は非常に遅い。從つて調達市場に於ける一般的變動に對する此の種の經營の適應は、逡巡的または斷續的に行はれる。

第三に信用市場の變動は、生産物が主として流動的收入によりて支拂はるゝ經營に對しては、その作用が微弱であるが、販賣商品の支拂の爲に信用が要求せら

れる程度が大なれば大なる程、その經營は信用市場の變動に強く影響せられる。(例へば建築業、高級家具業、衣服工業の如し)

第四に中小經營は一般に自家勞働を利用する範圍廣きが爲に、勞働市場に對する依存性は比較的些少である。勞働市場への依存性如何は、當該經營が如何なる程度に他人の勞働を必要とするかに依存するものである。

斯くの如く中小經營は大體に於て、外部的市場變動ことに販賣市場の變動に對する認識の可能性は高いと言ひ得るのであるが、また他面に『中小經營は組織的方策を採用する大經營に比して、市場變動を判斷し、それに基づいて經營の運行を意識的に調整する能力を缺くが爲に、彈力性實現の爲の前提的要件を放棄する場合があるのである。¹⁰⁾』

さて彈力性實現の爲の第二の前提的要件は變動に對する適應意志が實行されうる事に存する。けれども此の適應意志の實行に對しては種々の人的並に物的抵抗

9) Ruberg, a. a. O. S. 210.

10) Ruberg, a. a. O. S. 210.

が存在する。

言ふ迄もなく中小經營と雖も、全く物的設備を缺ぐことは出来ない。けれども中小經營の物的設備は比較的低級であつて、市場の變動に應じて容易に之を改變しうるのが普通である。故に一般に『中小經營に於ては、適應實現上の物的抵抗は大經營に於ける程甚だしくない。』¹¹⁾適應實現上の物的抵抗は經營規模の大いさにつれて加はるのである。

更にまた中小經營に於ては、指揮勞働と執行勞働とが比較的密接に結合して居るが爲に、『組織的構成、Organisationsaufbau に由來する適應上の抵抗もまた大經營に比して小であつて、經營指導者の意志は何等の摩擦なしに遂行されるのである。』¹²⁾

斯くの如く經營の人的組織の簡粗なることは高き適應能力を生み出す一つの原因であるが、そのことは同時に、經營の技術的改善が僅少の勞働者または經營所有者たる一個人の技術的能力以上に進み得ないと言ふ缺點を伴ひ、經營の擴張能力ことに好況時に於ける適

中小經營の彈力性に就いて

應能力を甚だしく制限する事となる。

中小經營の彈力性の考察に當りては、その「人と經營との關係」が特に重大なる意義を有する。『中小經營に在りては勞働者も尚ほ責任ある共同者であつて、彼は仕事と密接に融合し、彼自らの實行力・獨自の判斷及その才能を自由に發揮することに依りて、諸々の障礙を克服せんと努力するものである。而して此の經營共同體、(die Betriebsgemeinschaft) 相互扶助の意志・指導者と従業員間の交互的信賴性に由來する彈力性の源泉は、資本家的なる計算的組織的技術に依りては創り出されないのである。』¹³⁾されば、此の種の彈力性の源泉は、今日の中小經營に取りて特に重大なる價值あるものであり、中小經營の繁榮の爲には、凡ての經營参加者が高き倫理的觀點に立ちて經營共同體の爲に努力する處あらねばならない。

既に明らかなる如く固定費用の増大は彈力性の低下を伴ふものであつて、兩者の間には謂はゞ一つの拮抗的關係が存在するのであるが、固定費用の切下げによ

11) Ruberg, a. a. O. S. 210.

12) Ruberg, a. a. O. S. 211.

13) Ruberg, a. a. O. S. 211.

14) 此處に云ふ固定費用の中には固定的人件費も含まれる事は勿論である。

る彈力性の増大は、多くの場合に大經營に對する競争力の低下を齎らすものなるが故に、かゝる目的の爲にする固定費用の削減は、之を無制限に行ふことを得ない。之に反し新たな固定的投资を行ふに當りては、それに依りて當該經營の彈力性が如何なる程度に障礙せらるゝかを考慮しなければならない。

四

最後に指摘すべきは技術の進歩と中小經營の構造的發展の關係に就いてである。技術の進歩は中小經營に對しても亦經營の構造的發展即ちその質的改善を要請し、例へば動力源として、牛の勞働の代りに電動機を設置し、馬や牛車が貨物用トラックに依りて代置せられるに至る。

この構造的變化は言ふ迄もなく、凡ての中小經營に於て一様ではない。『中小經營に於て新設備の採用が最も盛に行はれるのは、發展的大經營に依る競争的恐威の大なる營業種別、即ち機械導入が容易であり、且つそれに依りて營業能率の著大なる向上が齎らされう

る部門、例へば木工業、屠殺業の如きである。——之に反し機械化經營に依る競争的恐威の薄き部門、例へば鍛冶業・革手袋業に於ては、此の構造的適應、strukturelle Anpassung¹⁵⁾ は、極めて遅々たるものである。』

Ruberg の指摘せる如く、中小經營群の中にはその生産行程の性質の如何に依り、機械化の進行、從つて經營施設の改善が比較的強く要請されるものと、然らざるものがある。而して經營施設の改善が比較的強く要請さるゝ經營は、自ら信用に對する要求も比較的強い。又然らざる經營に於ても原料の購入・勞賃の支拂等の爲に常に流動的信用を必要とする。然るに中小經營に在りては、物的信用は一般に低く、必要な場合にその施設を改善し、または適量の原料を仕入れることに依りて、景氣的或は季節的好況に處する能力を缺ぐのである。故に中小經營の彈力的適應を充分に發揮せしめんが爲には、人的信用を基礎とする信用政策を確立しなければならない。